

麻生区区民会議 第8回 市民活動・地域活動の活性化部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成27年7月21日（火）午後3時00分～午後5時10分
- 2 開催場所：麻生区役所第3会議室
- 3 出席者：[専門部会委員]
岡倉委員、高橋委員、石井委員、石川委員、植木委員、小尾委員、高倉委員、林委員、宮本委員
（欠席）横田委員
[事務局] 井上企画課長、白石、麻生 [コンサルタント] 中島
- 4 傍聴者 0名
- 5 連絡事項
各種連絡事項について
 - ・企画部会の議事要旨について部会長が説明。子育てフェスタへの協力の打診等。
 - ・前回の会議についてコンサルタントが説明。
 - ・部会長より、市民自治の実態等に関する調査結果をまとめた資料について提出あり。65～69歳の男性を対象に社会活動・地域活動参加の呼びかけが効果的であること、人材登録制度の需要や、情報提供の充実が求められていること等の説明あり。また、「シニア」という言葉のイメージも、行政や民間施設など使用目的によって、年代をそれぞれ設定しているとのこと。

6 議事

【ボランティアの活動促進】

○シティプロモーションコンにおける「人が知ってから行動するまでの段階」をボランティアへの参加に置き換えて、「知る」、「関心を持つ」の段階に関して、意見交換を行った。

《主な意見》

- ・「知る」について、配布されている福寿手帳にはボランティアの記載がない。記載したらどうか。
- ・回覧板は難しい。家に届いても妻が見て、他へ回してしまうのではないか。
- ・妻が夫に見せるような切り口を考えてみたらどうか。妻に向けたPR。妻が夫を参加させるようなタイトルを加えてみてはどうか。
- ・男性は照れ屋な人が多い。参加させるには妻に勧められてなどの理由が必要である。
- ・市政だよりや新聞の折り込みチラシ、市政だよりの特別ページでの周知はどうか。
- ・文字、ペーパーだけに限らずホームページ、対面による周知など様々な媒体・方法を幅広く考えてみたらどうか。
- ・区を挙げて、ボランティアに参加してもらおうキャッチフレーズか何かがあるとよい。
- ・NPO、市民活動では広報が肝心。メディアミックス。雑誌、HP、地域情報紙、掲示板など露出機会を多くする。また、市民活動に携わるそれぞれの人がPR意識を持つことも肝心。フェイスtoフェイスの関係も重要である。
- ・ボランティア掲示板は、スポーツセンターややまゆりなどの機関にあるが、大きく分けて町会・自治会の掲示板と市の広報掲示板がある。町会等の掲示板は、麻生区町会連合会理事会を通じて依頼が必要。
（市の広報掲示板の区内設置数は66で行政からのお知らせに限定されている旨、確認。また、町会・自治会の掲示板は区内に約400程ある旨、確認した。※事務局後日確認）
- ・小田急電鉄と協定を締結して、新百合ヶ丘駅の掲示板等を活用できないか。（市レベルとの協定となる。）
- ・民間施設でいえば、協定を締結しているイオン新百合ヶ丘店との連携の可能性あり。（子どもの遊び場のように、区を通じてPRの場としての活用が期待できる。）
- ・イオン新百合ヶ丘店でどの区民へのお知らせは、1カ月ごとにテーマを変えてPRしたらどうか。
- ・「関心を持ってもらう」について、ボランティアの講座や相談コーナーが挙げられる。
- ・社会福祉協議会でも講座を開催しているが、募集する側と応募する側でミスマッチが起きている。
- ・社会福祉協議会の場所がわからない人がいると思う。
- ・やまゆり、社協、市民館の相談コーナーと一緒に紹介したチラシを、地域振興課が作成している。

- ・もやもやしている人にヒットするキャッチフレーズが必要。何らかのきっかけになる。
- ・若い世代が減少するこれからの社会、高齢者同士で支え合わなければ成り立たない。そのことをわかってもらう必要がある。
- ・家に居づらい。外の方が楽しいから市民活動に参加するという人も中にはいる。
- ・「関心を持つ」から「行く」に係る部分については、個人の価値観に左右されるのではないか。
- ・自分のため、社会のため、余暇のため、健康のため、特技を披露するため、時間があるため、などの様々な理由が挙げられる。それぞれの人に、それぞれのアプローチが必要である。
- ・参加のハードルを下げる殺し文句が必要ではないか。

《部会の成果イメージ》

当部会の成果のイメージについて、コンサルタントから案が出されたが、当面はイメージを定めずに審議を進めていく旨確認した。

【今後の活動・調査について】

事務局より、当部会のアンケート・PR等ブースを設置できそうな、秋のイベント候補（案）を提出。

《主な意見》

- ・区民まつり、健康づくりのつどい、福祉まつりの3つのイベントの内、「健康寿命」の話との関連性から健康づくりのつどいが一番適していると思う。
- ・PR、相談、アンケートの他、相談窓口や定年退職セミナーのチラシ配布等を検討できるのでは。
- ・アンケートを実施するならば啓発物品の配布が必要。缶バッジなど。また、来場者は女性の方が多い。
- ・アンケートの項目の中に、夫を外に出す工夫等の質問を入れたらどうか。
- ・フォーラムの話が進んでいけば、その際にフォーラムも周知できるのではないか。
(フォーラムは12月～2月頃が適当か。2月頃はイベント、講演会が多いので、上手く日程をずらしてほしい。フォーラムの全体の構成は企画部会であるが、内容は各部会が検討する。)

→「健康づくりのつどい」で、ボランティアPRのブースを設置する旨、確認。

コンサルタントより実施する際は、どのようなPRをすればボランティアに参加したくなるのか等、事前に仮説の設定が必要である旨、助言あり

【現場調査】

- ・調査について、現場の実態を把握するために、いこいの家を利用されている方を対象に調査をしたいと思うが。
- ・いこいの家は、多くが団体として借りており、趣味等のサークル活動をしているケースが多い。また、利用者の年齢も本部会でターゲットとしている世代よりも、上の世代にあたるのかと思う。
- ・ターゲットにしているシニア世代は、スポーツセンターや図書館の利用者に多いそうだ。
- ・テストケースとしては岡上地区が恵まれている。飛び地なので、いこいの家、市民館、学校などコンパクトにまとまっている。

→目ぼしい調査先があれば、今後の審議でも順次挙げていくことで確認。

新たな総合計画に関する市民意識調査報告書（一部抜粋）について、事務局より説明。

あさお子育てフェスタについて、事務局より説明。改めて区民会議委員の協力を依頼。

次回部会において、7月末に開催される地域人材育成連絡会議に関する進捗状況の報告を依頼。